



視察報告

立憲・国民・無所属の会さいたま市議団は、さいたま市への政策提言を行うため、

政務活動費を使用した視察を適宜行なっています。

視察を通じ、どんな知見が得られ、

それをさいたま市にどのように反映していくかについて市民の皆様への説明責任を果たすべく、

本ホームページ上で視察報告を公表します。

「会派合流・会派名変更前のデータも公表しています。」

2009/07/25

【民主党 さいたま市議団】 東京韓国学校視察

東京韓国学校視察

【視察先】 東京韓国学校（所在地 東京都新宿区若松町2丁目1）

【日程】 2009年7月13日（月）

【参加者】 高柳俊哉、細川邦子、土井裕之、池田麻里、三神尊志

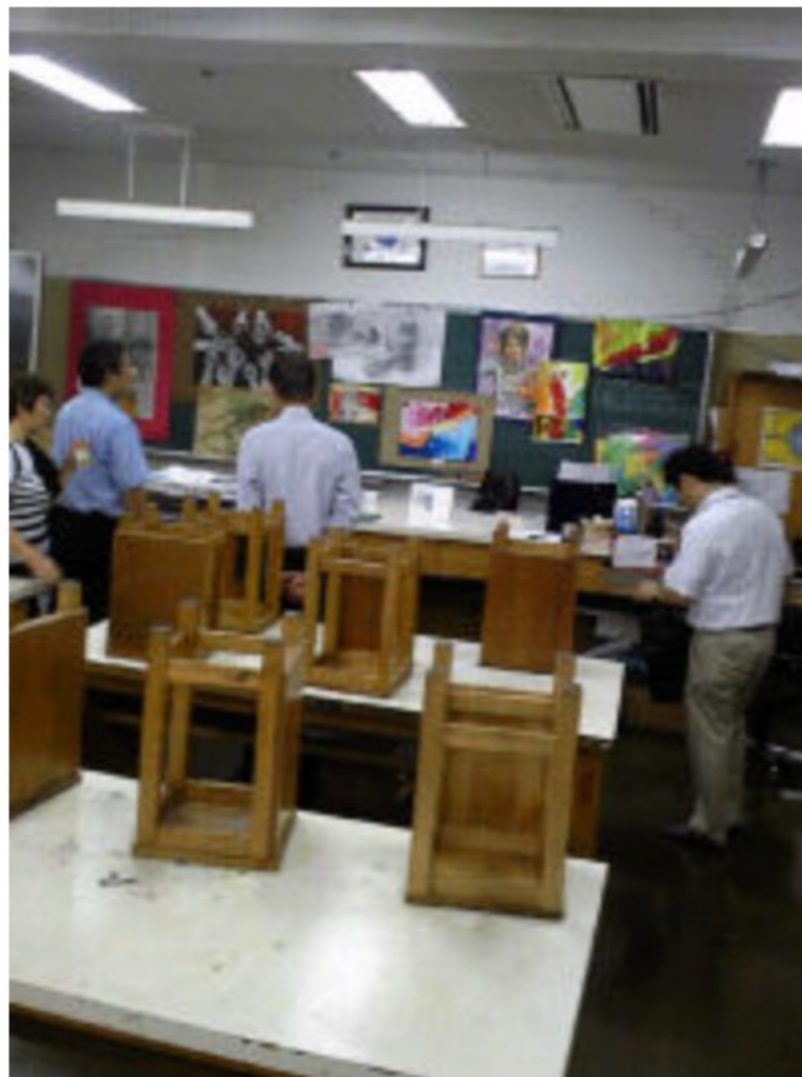


【目的】

国際化、多文化共生の推進は、さいたま市にとっても大きな課題。小学校からの英語学習は本市でも取り組まれているが、韓国語・英語・日本語というトリリンガル教育の実践校として、東京韓国学校を訪問し、その取り組みに学ぶとともに外国人学校の共有する課題調査をおこなう。

【視察】

冒頭、校長先生を表敬訪問。学校のPRビデオを視聴し、質疑応答を行う。その後、初等部・中等部校舎をご案内いただき授業見学をおこなった。



【特色】

東京韓国学校は1954年、在日韓国人が民族教育のために設立。当時、初等部17名・中等部9名、合計26名の生徒と教師10名で、民団中央本部の建物の一画に設立。1962年には、大韓民国教育法第81条に基づき、学校法人として認可を受けている（日本では、各種学校として位置づけられている）。

「グローバル化の主役となる韓国人の育成」を掲げ、これまで8,000人を超える卒業生を排出している。初等部・中等部・高等部の現在の生徒数は1,000名程度であるが、韓国企業や駐在員の子どもの一時滞在者が約50%、ニューカマーの定住者が約40%、オールドカマーの定住者が約10%という構成となっている。高等部出身者は、韓国や日本の有名大学への進学実績もある。

初等部については、「イメージ教育」として1年生からの英語授業のみならず、算数・理科・音楽などの教科でも英語を用いた授業を行うなど積極的に英語・韓国語・日本語のトリリンガルの育成に取り組んでいる。そのために、英語のネイティブの教員を多く採用している。

最近では、入学希望者が増え、教室不足が大きな課題となり、校舎増築を予定している。また韓国政府の方針変更で学校への補助金が大幅に削減され、学校経営に影響を与えているという。

【成果】

現在、小学校からの英語教育導入が大きな課題となっているが、その先駆けとして、今回視察をおこなった韓国学校の教育は大いに示唆を与えるものである。一方、英語自体の理解と教科内容の理解など「評価方法」について、詳細に理解する必要性を感じた。また、日本の私学には適用されている税制上の優遇措置が適用されていないという制度上の課題について、教育の機会均等の観点からもしっかりと取り組んでいく必要性を感じた。今後とも他の外国人学校への視察をおこない、理解を深めていきたい。